病院長就任ご挨拶

病院長　別宮 好文

埼玉医科大学総合医療センターは、昭和 60 年に埼玉医科大学 2 番目の病院として川越市に開設され、開院から３５年以上が経過しております。この間に医療を取り巻く環境は大きく変化し、医療の内容や技術も急速に進歩・発展を遂げており、それらに対応すべく、当院もさまざまな診療体制の改善に取り組んできております。

はじめに、当院の概略を紹介させて頂きますと、病床数 1053 床、病床稼働率 90%以上、1 日の外来患者数約 1600 名、医師数 4 百数十名、職員数は 2000 名を越える規模の病院となっております。

当院の最大の特徴は、全ての診療科が揃っていて、あらゆる病気や怪我に対応できる " スーパー " 総合病院（super general hospital）であることです。厚生労働省の 5 疾病（がん、心筋梗塞、脳卒中、糖尿病、精神科）5 事業（救急医療、周産期医療、小児医療、災害医療、へき地医療）に積極的に取り組むとともに、近年では、病院機能の高度化に向けて、救急医療体制の拡充、がん診療連携拠点病院や難病診療連携拠点病院などの各種指定医療機関としての機能の整備・強化を行い、地域における中核的な役割を果たす総合病院として、地域とともに成長・発展して参りました。

具体的には、複数の診療科とスタッフが協力して運営するさまざまな " 診療 " センターを順次開設して参りました。平成 25 年 1 月に総合周産期母子医療センターを増床し、平成 28 年 1 月には高度救命救急センターの新棟が竣工、さらに、同年 3 月には埼玉県初の小児救命救急センターを開設致しました。その後も、内視鏡センター、血液浄化センター、外来化学療法センター、脳血管センター、超音波センター、臓器移植センターなどを相次いで拡張ないし新設してきております。これらのセンターでは、診療科の垣根を越えた連携を可能とし、加えて、多職種の協働を具体的に実現するものであります。特に臓器移植センターは、肝移植、膵腎同時移植、腎移植を行う、日本で数少ない臓器横断的な臓器移植センターです。ここでは、埼玉県初の生体肝移植、膵腎同時移植が行なわれ、埼玉県の臓器移植医療を支えております。

その他にも、従来から置かれている感染制御室、医療安全対策室、褥瘡対策室（WOC 管理室）などに加えて、がん診療支援室、緩和ケア推進室、患者支援室（医療福祉相談室、病診連携室、がん相談支援センター、入退院支援室）、遺伝相談室、難病支援相談室なども拡張あるいは新設し、患者さんに安心で安全な高度の医療をお届けすることに努めております。また、2020 年よりパンデミックとなった新型コロナウイルス感染症に対して迅速に対応し、中等症から重症患者の入院加療などを川越市や埼玉県と連携して行っております。

療養環境の充実につきましても、平成 28 年度より病棟部門や診療部門、リハビリ部門・放射線部門、臨床工学部、給食施設などの改修工事に着手致しました。また、平成 30 年 1 月には、本館 3 階に茶寮（コンビニと喫茶の複合施設）をオープンさせるなど、患者さんが少しでも快適に過ごしていただけるよう環境整備に努めてきております。

この他、大学としての教育・研究機能を充実させるため、総合医局や研修医施設･カンファレンスルームなどを完備した管理棟、研究スペースの拡充を目的とした第二研究棟を相次いで竣工させ、診療部門のみならず、医科大学としての総合的な機能の充実にも努めております。

当院の基本理念は､｢安全で質の高い医療を提供し、地域から信頼される医療機関を目指します｡｣であり、その実現のために、埼玉医科大学グループの病院として、地域の病院や診療所との連携を密にして地域医療に貢献し、社会環境の変化に柔軟に対応し、埼玉県のみならず本邦の医療の発展に大きく貢献できる施設であり続けたいと考えております。

Your Happiness is Our Happiness（あなたの幸せが私達の幸せです）。

あなたの幸せが私達の幸せです
Your HAPPINESS Is Our HAPPINESS
埼玉医科大学総合医療センター